

第 3 次

伊勢崎市総合計画

長期ビジョン（基本構想）（素案）

長期ビジョン（基本構想）は、長期的視点に立った総合的かつ計画的なまちづくりの最高指針としての役割を果たすものです。

長期ビジョン（基本構想）では、伊勢崎市が社会において果たすべき使命、存在意義であるミッション、伊勢崎市のあるべき姿、未来像であるビジョン、まちづくりに際しての行動指針、価値観であるバリューを定めます。

伊勢崎市に関わる市民、企業、団体、行政などのあらゆる主体が長期ビジョン（基本構想）を共有し、理想の伊勢崎市の実現に向けて共に歩んでいきます。

1 ミッション（使命、存在意義）

本市の特徴を踏まえ、社会において果たすべき使命、存在意義である「ミッション」を次のとおり定めます。

(1) 活力ある拠点の形成を

農業、商業、工業などあらゆる産業を発展させ、チャンスを生かし活力あふれる拠点を形成します。

(2) 理想の共生社会の実現を

国籍、文化、世代、障害、地域など、様々な特性を理解し、尊重し合うことにより、新たな価値を創出し、理想の共生社会を実現します。

2 ビジョン（あるべき姿、未来像）

ビジョンは、本市がミッションを果たすためのあるべき姿、未来像です。

長期ビジョン（基本構想）の計画期間である10年間に縛られることなく、長期的な視点で目指す市の未来像として「伊勢崎市将来ビジョン」を定めます。

そして、「伊勢崎市将来ビジョン」を実現するための7つの政策と、政策ごとに今後10年間で達成する7つの姿である「政策のゴール」を定めます。

なお、7つ目の「政策のゴール」は、他の6つのゴールを下支えする市の政策全般に関係するゴールとして位置付けます。

(1) 伊勢崎市将来ビジョン

伊勢崎市将来ビジョンを次のとおり定めます。

『えがお咲く未来へ 持続可能な共生都市 いせさき』

<えがお咲く未来へ>

伊勢崎市は、山々の眺望、豊かな大地、川の流に抱かれた自然環境を礎に、革新的な養蚕と絹織物技術を生み出し、日本の近代化を牽引してきました。

こうした偉大なる先人の知恵が引き継がれ、四季折々の花が咲くように、豊かな農業、活発な商業、力強い工業などの特色ある産業が開花しています。

将来の伊勢崎市は、ここに暮らす誰もが、自己の可能性を生かし、共に歩み手を取り合い、それぞれが幸せの笑顔を咲かせ、さらに活力あるウェルビーイング^{*}な未来を創っています。

<持続可能な共生都市>

国籍、文化、世代、障害、地域など、多様性のある地域社会が構成されています。

将来の伊勢崎市は、次世代に引き継ぐ豊かな自然環境と、分け隔てなくお互いを尊重し支え合えるインクルーシブ社会^{*}の実現に向けて、本市に関わる全ての人々が最先端の技術を駆使して自らを変革し続け、持続可能な共生都市を創っています。

「えがお咲く未来へ 持続可能な共生都市 いせさき」を目指して、私たちはこれからの伊勢崎市を紡いでいきます。

※ウェルビーイング (well-being) : 身体だけでなく、精神面、社会面も含めて健康で、社会全体が幸福で満たされた状態。

※インクルーシブ (inclusive) 社会 : 性別、国籍、宗教の違いや障害等の有無によって、分け隔てられることなく、誰もが互いを認め支え合って生活できる社会。

(2) 政策

将来ビジョンを実現するための7つの政策を次のとおり定めます。

- ア 子育て・教育政策
- イ 健康・福祉政策
- ウ 産業・観光・文化政策
- エ まちづくり政策
- オ 安心安全政策
- カ 環境政策
- キ 共生・共創・行財政政策

(3) 政策のゴール

政策ごとに今後10年間で達成する7つの姿である政策のゴールを次のとおり定めます。

- ア 子育て・教育政策のゴール 未来の担い手が育ち、全ての人が成長し続けられるまち

それぞれの家庭や親のライフスタイルに対応した出産及び子育ての支援を充実し、子どもを安心して産み育てることができる環境を整備します。

また、よりよい未来を創り出す次代を担う人材を育むため、知識の習得、人を思いやる健全な心の成長、たくましく生きる体をつくる学びを実践します。

そして、誰もがいつでも学ぶことができ、学びの楽しさを地域に還元することで、地域の学びの輪を広げ、郷土愛を育み、全ての人が心豊かに生きがいをもって成長できるまちをつくります。

- イ 健康・福祉政策のゴール 誰もが健康で互いに支え合いながら生き生きと暮らせるまち

全ての人が自身や大切な人の健康を気遣い、いつまでも心身ともに健やかに過ごせるよう保健・医療・スポーツに係る支援を推進します。

また、高齢化の進展に伴う諸課題に対応するため、健康寿命を延ばす取組を推進するほか、高齢者が生きがいを持ちながら地域と関わり合え

る社会をつくります。

そして、障害者への支援の充実と理解促進を図るとともに、誰もが住み慣れた地域で支え合いながら自分らしく生き生きと暮らせるまちをつくります。

ウ 産業・観光・文化政策のゴール 経済の好循環が生まれ、活気にあふれ人が集えるまち

災害に強い地域特性や交通の利便性の高さを生かし、様々な企業の誘致や、起業及び産業集積を促進することにより、雇用を創出し、個人所得の増加、消費の拡大、また税収増加による公共サービスの充実と経済の好循環を生み出します。

また、農業における担い手の確保や生産性の向上を図り、持続可能な農業を推進します。

そして、祭などの地域の伝統文化の継承、芸術文化の振興を図るとともに、観光や商業の活性化を支援することで、市外から多くの人々が訪れ交流できるにぎわいのあるまちをつくります。

エ まちづくり政策のゴール 住環境と自然環境が調和した、心地良い空間で暮らせるまち

道路、橋りょう、公園、上下水道など人々が生活するために必要な都市基盤の整備や効率的な維持管理を行い、日常生活の快適性・利便性を向上させます。

また、公共交通ネットワークの再構築に取り組むことにより、買い物や通院など、日常生活に必要な移動手段の維持と確保を図ります。

そして、将来的な高齢化や人口減少を見据え計画的な土地利用と良好な景観形成を推進し、随所に自然を感じられる本市の特徴を生かしながら、心安らぐ空間で暮らせるまちをつくります。

オ 安心安全政策のゴール 1人ひとりが日頃から安全を意識し、安心して暮らせるまち

近年、地震や台風、ゲリラ豪雨などの災害が頻発しており、激甚化が進んでいます。今後起こり得る未曾有の災害に備え、都市基盤等の整備

などによるハード面の対策と、地域における防災体制の強化、市民1人ひとりの防災意識の向上を図るなどソフト面の対策を推進することで、災害による影響を最小化し、迅速に回復する強くてしなやかなまちをつくりまします。

また、特殊詐欺を含めたあらゆる犯罪の危険や交通事故から市民を守るため、防犯体制を強化し、犯罪や事故を未然に防ぎ安心して暮らせるまちをつくりまします。

カ 環境政策のゴール あらゆる活動で環境に配慮し、1人ひとりが脱炭素社会や循環型社会の実現に向けて行動できるまち

地球温暖化、気候変動は、地球規模で脅威をもたらしています。市民、企業、団体、行政が一体となって、脱炭素社会の実現に向け、包括的な取組を促進させ、これら課題の解決に向け、行動、実践していくことが必要です。

水と緑あふれる自然環境、生物多様性の保護保全と、ごみの減量化や再資源化の推進の取組を効果的に進め、循環型社会の実現のため、皆で取り組む事業、行動に環境配慮の視点を取り入れて、環境に配慮したまちをつくりまします。

キ 共生・共創・行財政政策のゴール 互いに認め合い、共に創る、未来に向かって持続発展できるまち

本市は、旧伊勢崎市、赤堀町、東村、境町が合併してできた都市であり、今もそれぞれの地域の特色を残しています。また、外国人人口が多く、国籍によって生活習慣や文化などが異なります。

本市はこうした地域性、国籍はもちろん年齢、性別などで分け隔てることなく、互いに認め合う共生社会を実現し、本市に関わる全ての人たちと力を合わせ、理想的なまちづくりを推進していきます。

また、時代の潮流に対応した新しい視点、広く環境に配慮した視点をあらゆる施策に取り入れていくことにより、将来の予測が困難な状況においても、自然と人が共生した持続的に発展するまちをつくりまします。

3 バリュー（行動指針、価値観）

まちづくりに際して持つべき行動指針、価値観である「バリュー」を次のとおり定めます。

(1) 協働による共創

市民、企業、団体、行政など多様な主体がそれぞれの強みを生かしながら協力し、生き生きと過ごせるまちを共に創ります。

(2) 変革による成長

めまぐるしく変化する社会情勢に対応するため、新たな考え方や先進的な技術を柔軟に取り入れながら、着実に成長していけるまちづくりを進めます。

(3) 尊重による共生

国籍、文化、世代、障害、地域などあらゆる多様性を尊重し認め合い、1人ひとりが自分らしく過ごせるまちづくりを進めます。

(4) 環境志向による持続

本市のあらゆる資源を環境の視点から最大限に活用し、将来にわたって持続するまちづくりを進めます。